

重源と豪族・田口成良悼む

東大寺 奈良と徳島の絆確かめ

鎌倉時代に東大寺（奈良

市）の再興に尽力した高

僧・重源と、徳島県神山

堂が浄土堂（現・俊乗堂）

町を拠点とした豪族、阿

波民部大夫・田口成良の

合同慰霊法要が8日、同

寺の俊乗堂で営まれ、参列

者ら約80人が奈良と徳島の

絆を確かめながら祈りをさ

重源上人坐像の前で営まれた合同法要（奈良市で）



を」と願い出たことから実現した。

法要は、重源上人坐像が安置されている俊乗堂で営

まれた。東大寺からは橋村公英別当ら、同町からは新

居住職ら合わせて10人の僧侶と、同町や奈良徳島県人

会の関係者ら約70人が参列。法要の後に平家琵琶の

奉納演奏も行われた。

合同法要は今後、毎年開かれる予定で、新居住職は

「感無量で、法要中に涙が出そうになった。田口氏の

ことを知ってもらえるよう、さらに地元でも活動したい」と話していた。